NCS5500 RP-E起動手順

内容

<u>目次</u> <u>1. BIOSメニューを使用したRP-E USBブート手順</u> <u>2.スタンバイRP-Eの起動</u> 3. LCの起動(必要な場合)

目次

1:Route Processor (RP-E) Universal Serial Bus (USB) Boot Procedure using Basic Input/Output System (BIOS) Menu (<u>CSCvm77427まで続く)</u>が修正されています。

2:スタンバイRP-Eの起動(CSCvk33106まで)が修正されています。

3:LC Bringup (必要に応じて)

1. BIOSメニューを使用したRP-E USBブート手順

この手順は、リリース6.3.1以降(RP-Eサポートが導入されたリリース)で適用されます。

これはシャーシのタイプに固有のものではなく、RP-E固有のシャーシ(5504、5508、5516など 、RP-Eを使用するモジュラシャーシなど)に関連しています。

また、固定プラットフォームには適用されません。

ステップ1:次の手順を使用して、USBとイメージを準備します

ステップ2:また、ファイルのMD5を確認して、内容が同じであることを確認します。

ステップ3:USBが挿入された単一のRPシステムで、電源を再投入します。

ステップ4:Escキーを押してBIOSメニューに切り替えます。次のような物が見えるだろう。

NCS-5516 Intel(R) Xeon(R) CPU D-1528 @ 1.90GHz 1.16.0

п

1.90 GHz 32768 MB RAM

Continue

Boot Manager Device Management Boot From File Administer Secure Boot Setup Utility This selection will direct the system to continue to booting process

ステップ 5: [Boot Manager]オプションを選択し、Enterキーを押します。

NCS-5516 Intel(R) Xeon(R) CPU D-1528 @ 1.90GHz 1.90 GHz 32768 MB RAM Continue Boot Management Boot From File Administer Secure Boot Setup Utility

ステップ6:UEFIを選択:以下のメニューの組み込みシェルオプション

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
Boot Option Menu
EFI Boot Devices EFI Hard Drive (Micron_5100_MTFDDAV240TCB)
UEFI:Built-in iPXE UEFI:Built-in Shell UEFI:Built-in Grub
UEFI:IPv4 0 Intel(R) I210 Gigabit Network Con UEFI:IPv4 1 Intel(R) Ethernet Connection X552
UEFI:IPv4 2 Intel(R) Ethernet Connection X552 UEFI:IPv4 3 Intel(R) Ethernet Controller X710 UEFI:IPv4 4 Intel(R) Ethernet Controller X710
UEFI:IPv4 5 Intel(R) Ethernet Controller X710 UEFI:IPv4 6 Intel(R) Ethernet Controller X710
ARRANIA
^v=Move Highlight <enter>=Select Entry</enter>

手順 7 : 任意のキーを押してShell>プロンプトにドロップするか、デフォルトでコンソールがシェルプロンプトにドロップします。

** delete/backspaceは機能しません。間違った内容が入力された場合は、Enterキーを押してくだ さい。これは現在の手順に影響を与えないためです。

ステップ8:「fs1:」と入力し、Enterキーを押します

** USBが挿入されているスロットに注意してください。次のファイルシステムは異なる可能性が あります(fs0とfs1) **

この例では、USBがslot1に挿入されています。



手順9:「Is」と入力して、「boot」と「EFI」の内容を一覧表示します(スナップショット全体 は以下に示します)

手順 10 : cd EFI

ステップ 11 : ls

ステップ12:CDブート

Press ESC in Shell> fsl:	n 2 seconds to ski	startup.ns	sh, any other	key to continue	
fsl:\> ls Directory o	f: fsl:\				
10/03/18 10/03/18 0 2	04:05p <dir> 04:05p <dir> File(s) Dir(s)</dir></dir>	16,384 16,384 Ө bytes	boot EFI		
fsl:\> cd E	FI				
fsl:\EFI> l Directory o	s f: fsl:∖EFI				
08/28/18 10/03/18 10/03/18 0 3	02:43p <dir> 04:05p <dir> 04:12p <dir> File(s) Dir(s)</dir></dir></dir>	16,384 θ 16,384 θ bytes	boot		
fs1:\EFI> c	d boot				

ステップ13:内容をリストすると、grub.cfgとbootx64.efiが表示されます

ステップ 14:「bootx64.efi」と入力してEnterを押す。(タブは自動完了に機能)

```
0 File(s)
                               0 bytes
          3 Dir(s)
fs1:\EFI> cd boot
fs1:\EFI\boot> ls
Directory of: fsl:\EFI\boot
 10/03/18 04:12p <DIR>
10/03/18 04:12p <DIR>
08/28/18 02:43p
                                  16,384
                                 16,384 ..
1,061 grub.cfg
915,486 bootx64.efi
 08/28/18 02:43p
          2 File(s)
                        916,547 bytes
          2 Dir(s)
fsl:\EFI\boot> boot boo
boot' is not recognized as an internal or external command, operable program, o
 batch file
fsl:\EFI\boot> bootx64.efi
Image Name = \EFI\BOOT/BOOTX64.EFI
Image Size = 915486 Bytes
-----Cisco Secure Boot: Verifying------
Image verified successfully. Booting..
 -----Cisco Secure Boot: End -----
GNU GRUB version 2.00
Press F2 to goto grub Menu..
Booting from USB..
Loading Kernel..
Kernel Secure Boot Validation Result: PASSED
Loading initrd..
```

ステップ 15:上記のログに基づいて、RP-EがUSBからブートしています。

ステップ16:RPが起動したら、ユーザ名/パスワードを設定し、残りの手順に従います。

2.スタンバイRP-Eの起動

ステップ1:スタンバイRP-Eをシステムに挿入します(この例では、RP1が挿入されています)。

ステップ2:この手順は、スタンバイRP-Eの状態によって異なります。どちらでも該当する通り にしてください。

注:注文によって選択されたイメージがない場合、スペアのRPはデフォルトで最新のイメージとともに出荷されます。

アクティブなRP-Eと同期するには、RP0 sysadminから次のコマンドを実行します。スタンバイがインベントリで検出されたら、次のコマンドを実行します。

RP0 sysadminから次のコマンドを実行して、スタンバイRPを起動します。

sysadmin-vm:0_RP0# hw-module location 0/RP1 bootmedia network reload

RP1のコンソールを監視して、内部PXEがトリガーされたことを確認できます。これにより、スタンバイRPが起動します。

注:スタンバイRP-Eからイメージが破損または削除された場合は、アクティブRPと同期するか、上記の「BIOSメニューを使用したRP-E USBブート手順」に従ってUSBブートを使用します

3. LCの起動(必要な場合)

ステップ1:RP0 sysadminから次のコマンドを実行して、ラインカードを起動します。(0/0など)

sysadmin-vm:0_RP0# hw-module location 0/0 bootmedia network reload